



ステロイド薬

(メドロール錠、プレドニン錠、プレドニゾロン錠など)

ステロイド薬はリウマチ治療を補助する薬です。

治療目的以外の望ましくない作用(副作用)を最小限に抑え、 効果を引き出す上手な使い方が必要となります。

ステロイド薬とは

♣ 役割

ステロイドとは、もともと体の中で作られるホルモンの 一つです。

痛みの原因物質ができるのを抑える働きがあり、素早く効きます。しかしリウマチを治療するための薬ではありません。関節リウマチを治療するための薬(抗リウマチ薬)は効果が出るまで数か月かかるため、効き目の早いステロイドを、抗リウマチ薬の効果が出るまでの間、一時的に使用する場合や、急に腫れて痛みが出た場合に使用することが多いです。

現在では副作用を予防する方法がたくさんあるため、 安心して使っていただけるお薬です。

♣ ステロイド薬の効果と投与量

- ●痛みの原因となる物質を抑え、痛みや腫れを速やかにしずめます。
- 投与量は、関節症状に対しては一般的にプレドニン錠 10mg(メドロール錠8mg)以下の少量ステロイド薬を 投与しますが、症状の強さや他の臓器障害がある場合 は、より多い量を投与することもあります。





ステロイド薬の副作用とその対策

使う量が少ない場合(5mg以下)や、使う期間が短い場合(1週間以内)は、副作用の心配は少ないです。 3ヶ月を越えて長期に服薬する場合は、副作用の予防対策を行います。

♣ ステロイド薬の副作用

ステロイド薬を飲み始めてすぐに、不眠や食欲増進の副作用が出ることがあります。その後も服薬を続けていると、ムーンフェイス(顔が丸くなる)や血圧・血糖値の上昇などが起こることがあります。しかし、ステロイド薬の量を減らすことや、使用を中止することで自然に改善するのであまり心配はいりません。

しかし、ステロイド薬の量が多い場合や服薬期間が長くなる場合は注意が必要です。免疫が落ちて感染症(細菌性肺炎、ニューモシスチス肺炎など)にかかりやすくなる可能性があります。また、骨粗しょう症、糖尿病、胃潰瘍なども起こる可能性があります。

➡ 副作用の対策

- 感染症予防のために肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンなどの接種を行います。場合によっては、抗生剤の投与も行います。
- 定期的に骨密度測定や採血での血糖値の確認、胃カメラを行います。

♣ ステロイド薬を使う上での注意点

ステロイド薬は副作用のイメージが強調される傾向があり、「できれば飲みたくない」「早く量を減らしたい」と思う人も多いようですが、1週間以上ステロイド薬を使用した時は急に中止をせず、少しずつ減らしていきます。急に中止した場合、血圧が下がったり、低血糖になってしまい倒れてしまう可能性があります。

→最後に

- ■ステロイド薬の用法・用量に関して、医師の指示に従って 服薬してください。
- ステロイド薬を使用していて、なにかいつもと違う体調の変化に気が付いた際には、すぐに当院に連絡または受診してください。
- ●ステロイド薬を決して、家族や知人に渡さないでください。

\ ご相談ください //

男性医師だから相談しにくい…。

診察中ゆっくり話が出来ない…。

説明をよく理解できなかった

このようなことなどがありましたら、いつでも スタッフに相談してください。

医師と連携をとりながら不安や疑問にお応え いたします。

大切なことは 一人で悩まないこと、 自分で判断 しないことです。

病気とうまくつきあいながら 普段通りの生活を送れるよう スタッフー同願っています。



